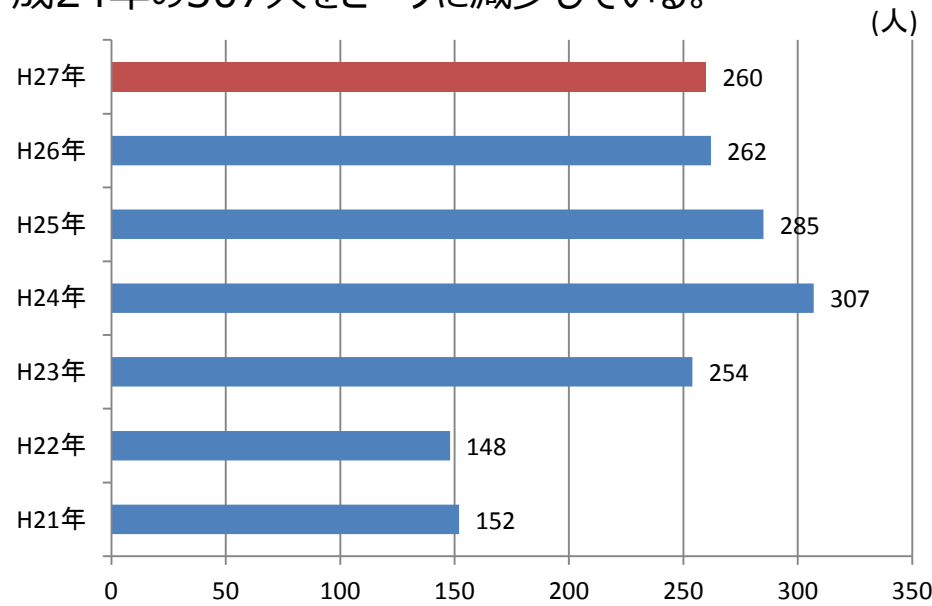


平成27年調査結果について

- ◆平成27年は260件（昨年より2件減少）、大阪府内の273分娩に1件が未受診や飛込みによる出産であった。
- ◆未受診や飛込みによる出産をするハイリスク妊産婦と児童虐待の背景要因は類似しており、多くの機関が継続して支援する必要がある。

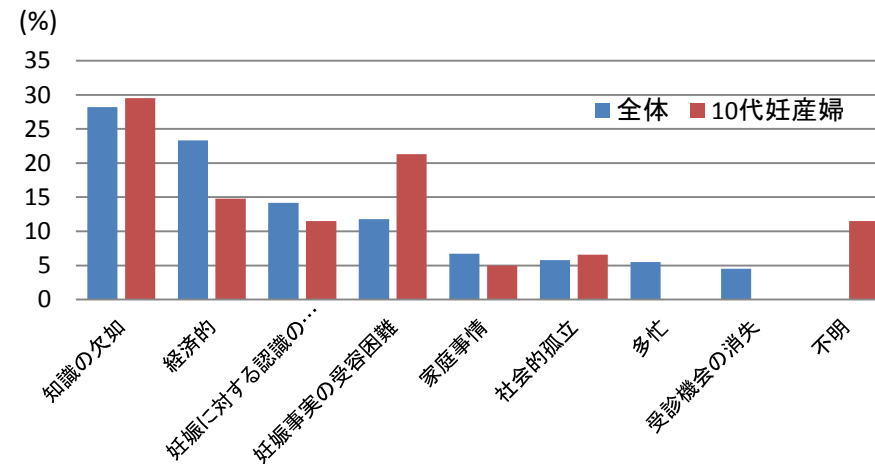
未受診妊婦数

●平成21年から調査を開始し増加傾向にあったが、平成24年の307人をピークに減少している。



全体と10代妊産婦の未受診の理由

- 全体では、平成26年度まで「経済的問題」が一番多かったが、平成27年度は、「知識の欠如」が28%と一番多くなっている。
- 10代妊産婦は、妊娠に気づかなかったという「知識の欠如」、家族に言えず、どうしていいのかわからなかった等「妊娠の事実の受容困難」が多くなっている。



調査結果を受けての対策

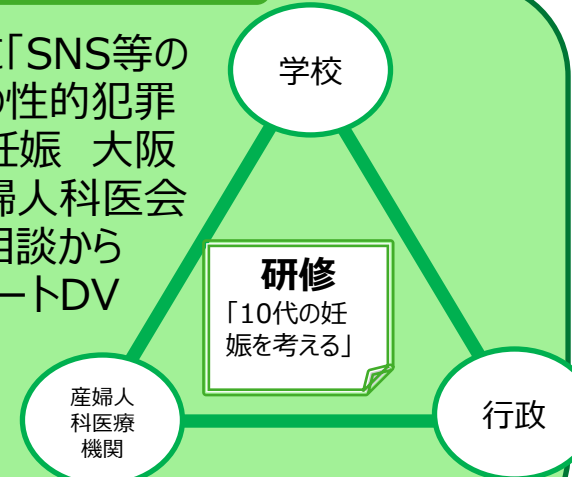
支援の必要な妊婦の発見・つなぎ

- ◆「未受診妊婦調査報告」「病院でのハイリスク妊婦への支援」「里親や養子縁組について」等の研修会を通して、顔の見える関係づくりを図り、相互に連携する。

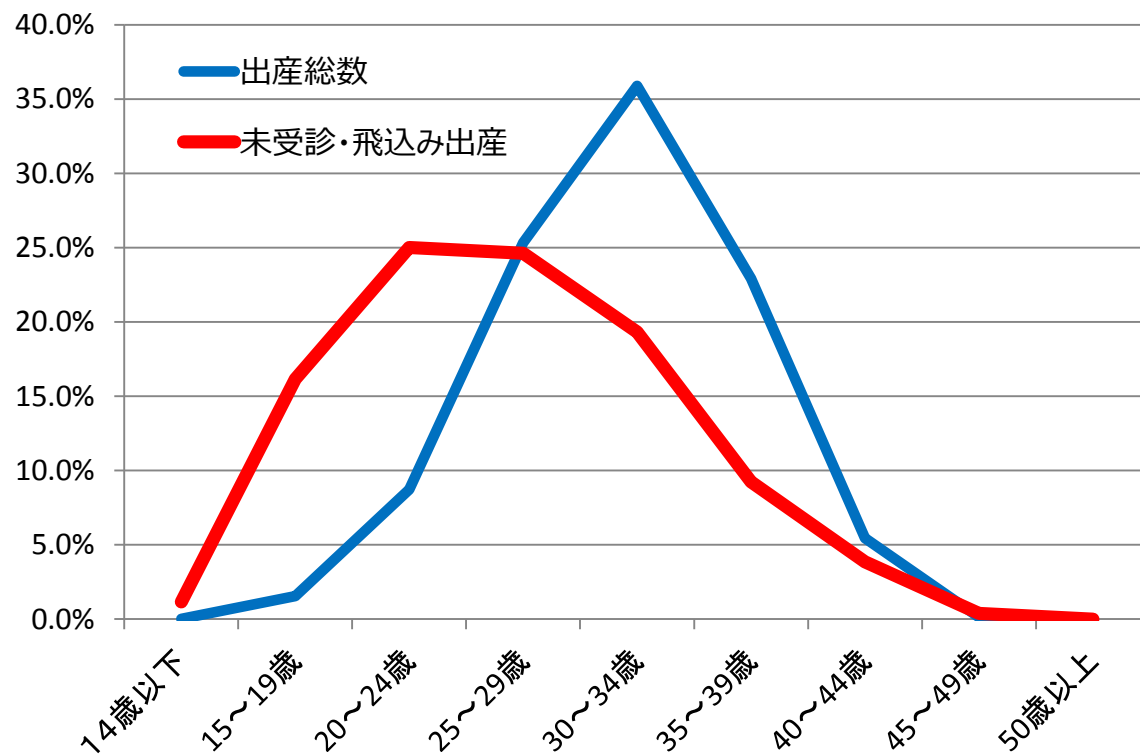


10代妊産婦の問題共有と連携

- ◆学校関係者を対象に「SNS等のネットに起因する10代の性的犯罪被害の実態」「10代の妊娠 大阪の現状報告」「大阪産婦人科医会が行う性教育」「メール相談から見た子ども達の現状-デートDVを中心に-」等の研修を開催することで、相互の役割を理解する。



未受診妊婦の年齢分布



- 平成27年の府内の出産年齢では30~34歳がピークである。

- 未受診や飛込みによる出産では、20~24歳が最多年齢層で全体の25%を占める。また、25~29歳も24.6%と、昨年度より増加しており、20歳台の占める割合が全体の50%となっている。

- 未受診や飛び込みによる出産をした妊婦の平均年齢は26.7歳であった。

妊娠・出産包括支援事業の推進

- ◆子育て世代包括支援センターにおいて、支援の必要な妊婦を地域のサービスや制度に結びつける。

